

教科名【図画工作】

児童の実態

- ・全体的に造形活動に興味・関心が高く、意欲的に楽しんで活動に取り組める児童が多い。
- ・平面製作において、細かく・きれいに描くことが「良いこと」という認識をしている児童が多い。そのことが、自信が持てず取り組みに対して消極的になってしまう要因にもなっている。
- ・自分なりのイメージはそれぞれもっているが、それをさらに膨らませることを面倒くさがったり、関心をもてない児童がいる。
- ・自分や友達の作品や考えについて興味をもって観たり考えたりできる児童が少ない。

授業革新推進に向けて

- ・6年間を通して、できるだけ多様な材料や題材、技法と出合わせることで、制作活動に対する興味・関心を高め、自分の考えやイメージを広げ、感性を豊かにする。
- ・児童の思いに寄り添い、イメージが広がるような声かけや、表現していることを具体的にとりあげて、肯定的に評価することで、最後まで粘り強く取り組めるようにする。
- ・様々な表現方法の選択肢を用意するとともに、材料や用具の特徴を理解し、技能の向上につなげ、自分の思いに合わせて選択しながら使えるようにする。
- ・タブレットパソコンで作品を鑑賞したり、写真にとって記録として残したり、さらに使えそうなアプリの研修を通して、授業で活用できるようにしていく。→ICTの活用。
- ・ペアやグループ学習、振り返りや鑑賞の授業を通して、お互いの考えを伝え合う場を設定し、自分の考えを広げたり、深めたりしていく。